

安全安心のための予防医学

横浜市役所 宗村徹也

イヌとのアウトドアライフを安全安心に楽しむ秘訣の一つとして「病気にかからない」ということが重要です。せっかくの楽しいお出かけもそのために病気にでもなったら台無しです。元気な状態でお出かけして、出かけた先では病気にかからず他へも移さず家に帰る、そしてもう一度次のお出かけへ。

そのため、このセクションのテーマは感染症です。感染症と聞くと、恐ろしいと感じます。そして、その対策なんて難しくて飼い主にできることなんて無いのではないかと。でも、実際は違います。感染症の対策は実はとっても簡単。1) 病原体にふれないこと。2) 病原体にふれても病気にならないカラダをつくること。3) 病原体にふれたかもしれないと感じて事前に対策できること。たったこれだけ？です。

1) 病原体にふれないこと。

アウトドアライフでは全く病原体にふれあわないことは非現実的。でも適切な駆虫薬の使用でその機会を大幅に減らせます。ところで日常行える室内飼育は病原体にふれる機会を大幅にへらすことができます。

2) 病原体にふれても病気にならないカラダをつくること。

定期的なワクチンと適切な時期の駆虫薬の使用で、病気になりにくいカラダを作ります。普段自分の家の周囲では流行している病気以外にも注意が必要です。とくに野山へのお出かけではいつもと違った病気への注意もしましょう。

3) 病原体にふれたかもしれないと感じて対策できること。

病原体がカラダへ入る経路にはかぎりがあります。口から入る、虫さされから移されて入る、けがや傷口から入る、などが有ります。病気が入る可能性のある行動をイヌが取らないように飼い主がきちんと見て又しつけてあげること。そしてそのような行動が有った時にはかかりつけの獣医師へすぐに相談できることが大切です。

イヌが元気であることと共に飼い主である私たちも元気であることも大切です。「イヌもヒトも元気なままで次のオデカケの計画」が理想です。